

香取

No.90

普及だより

URL <https://www.pref.chiba.lg.jp/ap-katori/index.html>

令和元年 12月1日発行

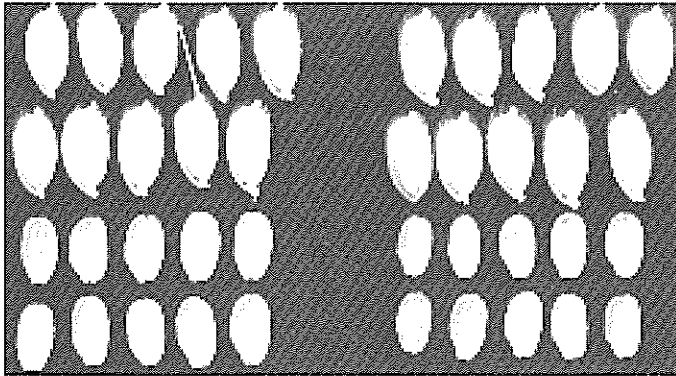
香取農業事務所 改良普及課
香取地域農林業振興協議会

〒287-0003

千葉県香取市佐原192-11

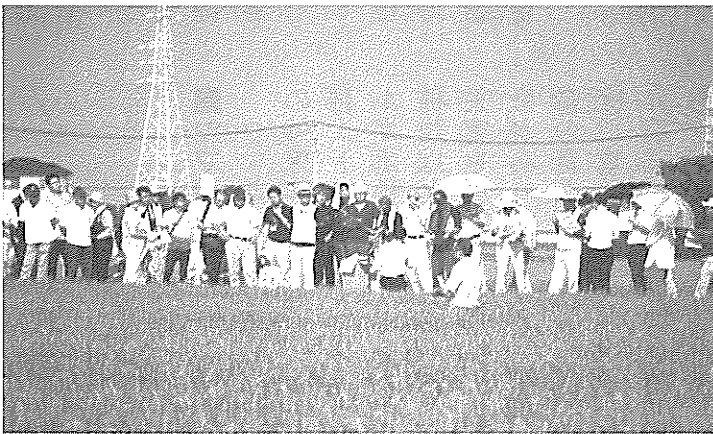
TEL: 0478(52)9195

FAX: 0478(55)1703

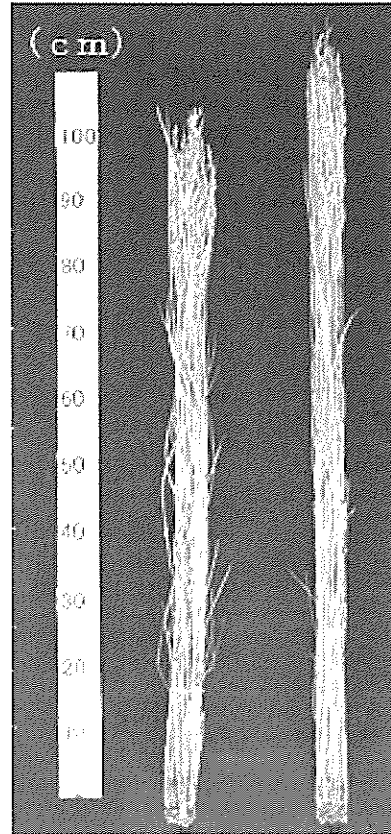


*「粒すけ」

「コシヒカリ」



新品種「粒すけ」現地検討会



*左「粒すけ」

右「コシヒカリ」

水稻新品種「粒すけ」登場！

千葉県は、平成18年の「ふさこがね」以来となる水稻うるちの新品種「粒すけ」を育成しました。令和2年から一般生産と販売が始まります。

「粒すけ」は、コシヒカリと同等の熟期ですが、短稈で耐倒伏性に優れており、コシヒカリより大粒で収量性が高い品種です。また、食味はコシヒカリと同等以上であり、炊飯米は白く光沢に優れ、幅広い用途に対応できる品種です。

香取農業事務所では、栽培展示を設置し、現地ほ場における生育調査を実施しました。育苗、栽培管理は従来品種と変わらず行うことができ、コシヒカリよりも短稈となることを確認しました。8月に、現地検討会を開催し、管内の生産者と関係機関へ「粒すけ」の品種特性と栽培方法、展示ほ場の生育状況について周知を行いました。参加者からは、来年試験的に栽培してみたいとの声が聞かれました。

今後、香取農業事務所では、新規組者への栽培指導を行い導入を支援していきます。

さつまいもの センチュウ対策の 最新動向

■近年のセンチュウ害の動向

令和元年産のさつまいものは、ネコブセンチュウ害が多い年でした。連作によるほ場のセンチュウ密度の増加が要因と考えられます。

■被害の症状

被害の症状は品種によって異なります。毛穴が深くなる症状が一般的で、ひどいものは表面がひび割れます。今年のシルクスイートでは、クレーターのような凹凸が多く報告されました。べにはるかでは、くびれやあばた症状が主に発生します。



■べにはるかの注意点

べにはるかには、ネコブセンチュウの被害が出にくい品種で

すが、センチュウは寄生します。ベニアズマにはあまり寄生しない「キタネコブセンチュウ」が寄生することが、分かっています。この種類は、落花生に寄生し被害を与えるため落花生との輪作には注意が必要です。

■緑肥・堆肥の活用

さつまいもの専作化が進む中、緑肥と堆肥の活用は極めて重要です。センチュウ対抗植物（緑肥）の栽培でセンチュウ密度が低減できます。

一年休作する場合には、ギニアグラスやソルゴー、クロタラリア等、収穫後にはエンバク等の緑肥が使えます。

また、土づくりとして完熟堆肥を活用しましょう。

■D-D剤による全面消毒

秋・春季の全面消毒はセンチュウ密度低減に有効です。残さが残っていると効果が劣るので事前に耕うんし、残さを腐熟させます。処理時期は、秋は10月まで、春は4月以降の処理が目安です。多発ほ場では、植付前にネマトリンエース粒剤等を使用して下さい。

ツマジロクサヨトウの 発生と対策

■ツマジロクサヨトウとは

ツマジロクサヨトウはヤガ科の外来種の害虫で、幼虫がイネ科（トウモロコシ、イネ）、ヒルガオ科（サツマイモ）等の80種類以上の作物の葉や茎、花と果実を加害し、食害が激しい特徴があり、食害痕の付近には多量の糞があります。生態の特徴は、老齢幼虫で約40mmの大きさになります。頭部に網目模様があり、逆Y字に見えます。本虫は暖地に適した種であり年4〜6世代発生します。11℃未満では発育せず、0℃で死亡します。

■発生状況

本虫の国内の初発生は令和元年7月に鹿児島県で確認され、千葉県では、同年8月に香取市の飼料用トウモロコシのほ場で発生が確認されました。現在、国内で被害を受けている品目の多くが飼料用トウモロコシです。

■防除方法

飼料用作物に係る防除

① 農薬（殺虫剤）散布による防除を行います。

② 農薬散布ができない場合は、速やかに刈り取りを行い、サイレージにするか、すきこみを行って下さい。

③ 前作で発生したほ場では、刈り取り後、速やかに複数回耕うんして下さい。

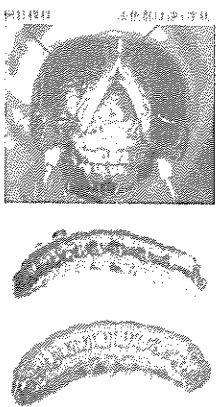
④ 使用可能農薬については、県ホームページを参考にして下さい。

(<https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/shokubo/tumajiro.html>)

■ツマジロクサヨトウに関する情報

詳しい情報は下記ホームページを参考にして下さい。

(http://www.maff.go.jp/j/syoutan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html)
画像は農林水産省のホームページより引用



求む! かとりの 若手女性農業者

「かとり農業女子ネットワーク」は、地域で活躍する女性農業者の技術・情報交流の場として、平成28年12月に設立しました。県の組織である「ちば県女性農業者ネットワーク」のメンバーとなり、他地域との交流も図っています。

設立当初の会員は、30名で60歳以上の会員が多数でしたが、若手女性農業者が積極的に加入し、現在では多くの若手会員が増え、20代、60代の幅広い年齢層の構成となっています。

会の目標は、①農業・生活の知識・技術の向上、②世代間の交流の拡大、③組織力を生かして地域で輝く女性農業者を目指す、としています。

7月には、豊洲市場やGAPを経営に取り入れ後継者育成に取り組む都市近郊農家の視察研修会を企画し、若手会員が多数参加しました。

視察後の交流会では、農業の

こと、家族のことなどの悩みが話され「年代ごとに、それぞれの立場からの思いが聞けて良かった」等、感想が聞かれ有意義な交流会となりました。



香取地域女性農業者
視察研修会

集え! かとりの 若手生産者!

さわらファーマーズクラブは

香取地域の次代の農業を担う若手生産者の団体です。地域の仲間作りや経営者資質の向上を目的に、農業経営体育成セミナーの卒業生が中心となり平成22年に結成されました。令和元年9月現在21名の会員がクラブ活動

に参加しています。

活動内容は、都市農村交流の開催や農業に関する視察研修会の実施等、多岐に渡ります。直近3年間の活動では、香取市と連携して消費者に対して収穫体験会やマルシェを開催しました。

そのほか、スマート農業研究施設への視察研修会や労務管理に関する勉強会を開催する等、意欲的に取り組んでいます。

また、平成26年度以降、さわらファーマーズクラブから6名が農業士に認証されており、地域の若手生産者の牽引役として、活躍が期待されています。

担い手の減少が進む中、若手生産者のネットワークがますます必要になっていきます。一緒に香取地域を盛り上げていきましょう!



さわらファーマーズ
クラブのメンバー

庭木を健康に保つために

庭木を美しく保つためには病虫害防除を適切に行うことが大切です。

■病気の見分け方について

①炭疽病：葉に暗褐色で中央部が灰白色の円形の病斑が生じます。

②褐斑病：葉に褐色で不定形の病斑が生じ、融合すると葉脈をこえて病斑が生じます。

③輪紋葉枯病：赤褐色で濃淡の同心状の病斑が発生します。

■病気を発生させない為には
①定期的な剪定：無駄な枝葉を切り、植物体の風通しを良くし、病気を抑制します。

②防除：薬剤散布による防除を行います。特に7、9月までは病気が発生しやすい時期なので、病虫害に応じた薬剤散布を行います。

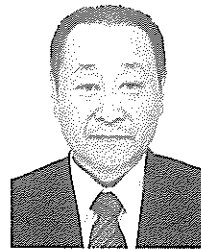
③肥料散布：花が咲き終わった後に即効性肥料を、冬期に緩効性肥料や堆肥を撒き、樹勢を整えます。

病気にかかる自然には治りにくいので、普段の管理に気を付けて防除を行いましょ。

千葉県指導農業者・農業士認証者の紹介

令和元年度農業士等認証式典が11月20日に千葉市で開催され、当農業事務所管内では指導農業者2名・農業士2名が新たに認証されました。

●指導農業者



青柳 耕一さん
(香取市)

養豚の一貫経営で、銘柄豚の生産・6次産業化にも取り組んでいます。また、農業後継者の育成にも精力的であり地域の担い手育成等について指導力の発揮が期待されます。

●農業士



川島 健次さん
(多古町)

露地野菜の多品目栽培に取り組み、堆肥や緑肥を取り入れた土づくりを実践しています。また、青年農業者団体に活動するなど、今後の地域リーダー役として活躍が期待されます。

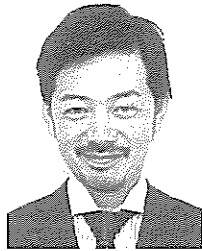
●指導農業者



内山 昌子さん
(多古町)

養豚の生産から加工・販売まで一貫した経営を行っています。地域の小・中学生を対象とした食農教育や農業研修生等を受入れるなど地域の若手農業者の育成にも取り組んでいます。

●農業士



岡野 敏幸さん
(東庄町)

こかぶの周年栽培に取り組み、雇用導入等により大規模経営を実践しています。また、農協青年部で活動するなど、若手農業者のリーダーとして活躍が期待されます。

「農業の知識を深めたい
あなたを応援します！」

農業経営体育成セミナー 令和2年度受講生募集中!

香取農業事務所では、就農直後の青年農業者の栽培技術・経営手法の習得とネットワークづくりを目的に3年間の農業経営体育成セミナーを開催しています(今年度参加者42名)。

▼対象

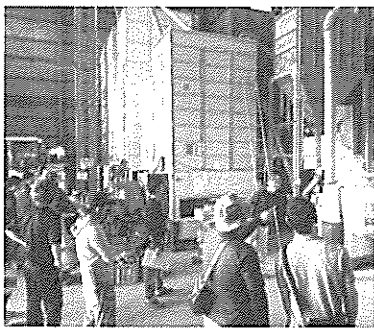
概ね45歳迄の新規就農者

▼研修期間

令和2年5月から3年間

▼主な研修内容

- ・ 農業の基礎知識の講義
- ・ 先進的な農業経営の視察
- ・ 栽培技術の改善や経営分析手法の実習



水稻コースでの視察研修

▼卒業生の活躍

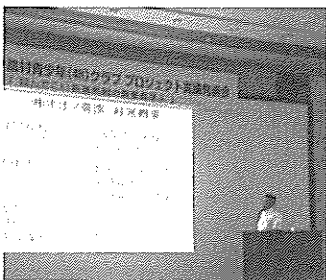
8月7日に埼玉県さいたま市において関東の青年農業者が一堂に会す、関東ブロック農村青少年クラブプロジェクト実績発表会が開催されました。

発表会では千葉県代表として、セミナー卒業生の大野雄一郎さん(株式会社オオノ農園)が「ぼっち積みが変わる新たな落花生乾燥手法の検証」の発表を行い、落花生の乾燥に自作コンテナを使用するという柔軟な発想が高い評価を受けました。

セミナー生も応援に駆け付け大野さんや他県代表者の発表から「目標達成のために何が必要なのか」と常に考える姿勢が重要であることを学びました。

▼お問合せ・申込み先

香取農業事務所改良普及課
0478(52)9195



プロジェクト発表大会